

# I

# 序論

---

1	計画策定の趣旨	4
2	総合計画の構成と期間	6
3	伯耆町のすがた	7
4	まちの現状と課題	9
5	町民のニーズ	11

## 1 計画策定の趣旨

伯耆町は、平成 28 年度に策定した第 2 次伯耆町総合計画に基づき、令和 2 年度まで諸施策を展開し、一定の成果を得てきました。しかし、本格的な人口減少社会の到来、少子高齢化の進行、大規模地震や気候変動に伴う豪雨等による自然災害のリスクの高まりなど、社会情勢や自然環境の大きな変化とともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が人々の生活や経済活動に深刻な影響を与えています。

私たちを取り巻く社会が今後大きく変容していく中で、伯耆町においても、これら社会の変容に的確に対応しながら、これまで以上に住民と行政が一体となった行政運営が重要になっています。このような状況を踏まえ、伯耆町行政における中心的な役割を担う計画として、次のポイントにより「第 3 次伯耆町総合計画」を策定します。

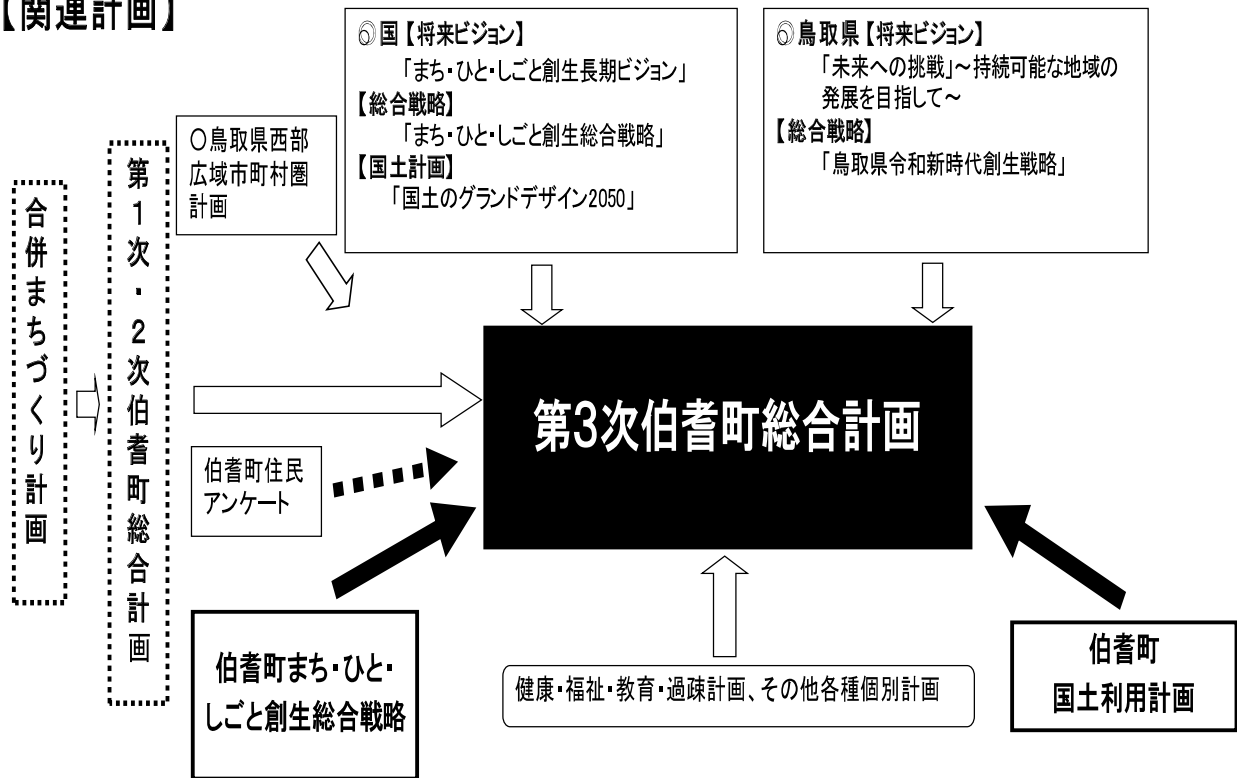
### ■ 策定のポイント

- ①第 2 次伯耆町総合計画(計画期間：平成 28～令和 2 年度の 5 年間)を継承する後期的な計画と位置付けて策定します。
- ②人口減少の抑制と持続可能なまちづくりの指針として策定した第 1 期「伯耆町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、「総合戦略」という。)の計画期間が令和 2 年度末で終了となりますが、総合計画と総合戦略の目指す目標は密接に関係していることから、次期総合戦略は総合計画と一体的に策定します。
- ③各分野での数値目標、総合戦略における K P I [重要業績評価指標] (※ 1) を設定し、目標年次の指標を明確にしました。
- ④平成 22 年度に策定した第 1 次伯耆町国土利用計画の計画期間が令和 2 年度末で終了となりますが、町の区域における国土の総合的かつ計画的な利用に関する指針として、総合計画の中に「土地利用に関する基本構想」を盛り込みます。
- ⑤「持続可能な開発目標 (SDGs※ 2)」の目指す 17 の目標と総合計画における重点施策を関連付けることで、総合計画、地方創生、SDGs を一体的に推進していきます。

※ 1 K P I [重要業績評価指標] : Key Performance Indicator の略で、数値目標の達成のために重要となる施策の目標値。

※ 2 S D G s : Sustainable Development Goals の略で、2015 年 9 月の国連サミットで 2030 年までの長期的な開発の指針として採択された「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標。

【関連計画】



## 2 計画の構成と期間

本町は、まちづくりの基本方針に基づく、まちの将来像の実現を目指して、重点施策と分野別施策の総合的な推進を図ります。

重点施策は、まちへの愛着の醸成やまちの特性を活かしたまちづくりをすすめるために、重点的、戦略的に取り組む施策として位置づけます。

分野別施策は、住民福祉の向上に向けて、重点施策との連携を図りながら推進する分野別の基本的な施策として位置づけ、10の分野別に整理し、設定します。

また、本計画は「まちの将来像とまちづくりの基本方針」、「基本計画」、「実施計画」で構成します。

### (1) まちの将来像とまちづくりの基本方針

長期的な視点に立ってまちの将来像を明らかにし、その実現に向けた基本指針を示すもので、計画全体の根幹となるものです。

### (2) 基本計画

基本計画はまちの将来像とまちづくりの基本方針を実現するための基本的な方策を示したものです。まちづくりの分野ごとの現状と課題、取組の方向性及び具体的な方策について明示しています。

### (3) 実施計画

実施計画は、まちの将来像とまちづくりの基本方針、基本計画に基づいて本町が実施する事業を示します。なお、実施計画に基づき実施する事業のうち、子育て支援、産業の振興・雇用創出、まちづくりに関する事業については、総合戦略における実施事業と位置づけ、総合計画の実施事業と一体的に取り組みます。

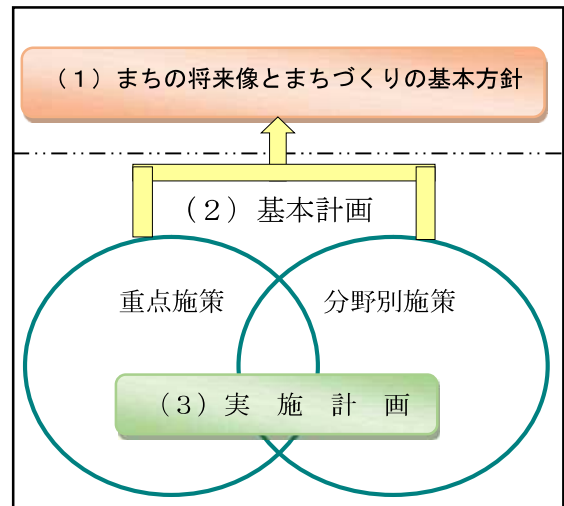
### (4) 計画の期間

令和3年度を初年度とし、目標年度を令和7年度(5年間)としています。

### (5) 進行管理

本計画の実施状況については、実施計画について毎年度ローリング(調査)を実施し、伯耆町総合計画審議会で確認するとともに、各事業の進捗状況について、町のホームページなどで公表します。

【計画の構成図】



## 3 伯耆町のすがた

本町は、豊富な自然環境、観光資源、歴史文化という様々な個性を持つ魅力ある町です。さらに今後のまちづくりに活かすべき特性について5つを挙げると以下のとおりです。

### 伯耆町の5つの特性



伯耆町(令和2年4月1日現在)  
 面積 139.44 km<sup>2</sup> 人口 10,836 人  
 人口密度 77.71 人/km<sup>2</sup>  
 世帯数 3,850 世帯 平均世帯人数 2.81 人/世帯  
 (住民基本台帳)

#### (1) 豊かな自然環境に恵まれた町

本町は、中国地方を代表する国立公園大山や鳥取県の三大河川の一つである日野川など、雄大な自然景観に囲まれたうるおいのある環境の中にあります。

この恵まれた自然環境を観光や産業など、さまざまな面で活かすとともに、自然環境の保全や自然と調和した生活環境の創出を図っています。



国立公園大山

#### (2) 多彩な観光資源のある町

本町は、国立公園大山に代表される自然環境を活用したゴルフ場やスキー場・観光リフト、また自然を活かした公園や広場、さらには温泉などの観光・リゾート施設が整備され、多彩な観光資源とともに大山を中心とした観光エリアを形成しています。

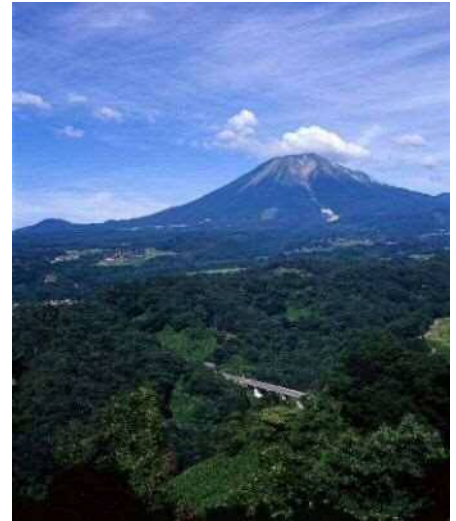


岸本温泉ゆうあいパル

### (3) リゾートと生活利便性を共有する町

本町は、大山山麓に展開する自然豊かな別荘地と米子市に隣接する生活利便性の高いベッドタウンという、2つの異なる住みよさが共有する町として発展しています。

また、町内には中国横断自動車道岡山米子線（以下「米子道」という。）が通過し、溝口インターチェンジ、大山高原スマートインターチェンジ（大山パーキング）が設置されていることから山陽方面や関西方面への交通アクセスの便利な場所に位置しています。



鬼住山から望む大山

### (4) 農業と観光・交流が連携する町

大山山麓を中心にした農業地帯では、多様な農畜産物が生産され、都市部への供給が行われています。

米のほか白ねぎ、白菜、しいたけ等の特産品の生産や食鶏、乳用牛、肉用牛の飼育などの農業が行われて、さらに特産品開発や観光と地場製品の流通の連携など、農業を観光・交流と連携させることによって新たな発展を図る取り組みがなされています。



大山ガーデンプレイス

### (5) 固有の歴史と文化をもつ町

白鳳時代の大寺廃寺跡から発掘された石製鴟尾せきせいしびや小野小町の墓と伝えられる五輪塔、たたら製鉄の歴史を伝える藤屋炉床や日本最古といわれる鬼伝説など、数多くの文化財や史跡が伝えられています。

また、山陰の自然を舞台に独自の技法で撮影した写真で世界的にも評価の高い写真家植田正治氏の作品を数多く所蔵展示している植田正治写真美術館は町内の重要な文化施設になっています。



植田正治写真美術館

## 4 まちの現状と課題

### ○ 少子高齢化への対応

本町の人口は、今後緩やかな減少傾向にあり、高齢化率も徐々に高まることが見込まれています。これらに起因して、町の活力低下を招き、医療や福祉などの社会保障経費の増大、税収減などによる地方財政の悪化、独居高齢者の増加、地域の自治活動や福祉活動、伝統文化の継承への影響など様々な問題が懸念されます。今後、子育てしやすい環境づくりや産業の振興・雇用創出、魅力あるまちづくりなど、地域の特性や課題を踏まえて、地方創生の取り組みを進めていくことが求められています。

### ○ 環境や景観の保全

本町は、豊かな自然に恵まれており、まちづくりアンケートの結果でも「自然環境や景観の保全」を求める住民の声は強く、多くの人々に安らぎを与えるかけがえのない自然や景観を守り、後世に財産として残していくことは重要な課題です。そのためには、農村地域の持つ多面的機能を守ることによる景観の保全をはじめ、自然環境の保護とごみの減量化、再資源化といった地球環境に負荷をかけない取り組みを一層進めていくことが求められています。

### ○ 安全・安心への取り組み

鳥取県西部地震、東日本大震災など、多くの傷跡を残した自然災害を教訓に対策を強化し、災害に強い安全な地域づくりを進めていく必要があります。

また、全国的に高齢者や子どもを巻き込んだ犯罪や交通事故、巧妙な手口による消費者被害、特殊詐欺被害の問題が深刻化しており、本町においても住民の不安を解消していくための安全・安心への取り組みが急がれています。

### ○ 多様化する住民ニーズへの対応

時代の変化、ライフスタイルの個性化などにより、住民ニーズは多様化し、近年は、便利で快適な都会的生活を好む一方で自然の中での田舎暮らしを好む傾向もあります。本町には、豊富な自然に囲まれた暮らしと県西部の中心都市に隣接した便利で快適な暮らしを兼ね備えた住みやすい環境があり、その利点を活かしたまちづくりが求められています。

### ○ 地域の自立

地方分権改革が進められ、自治体は自らの責任と判断の下に、地域の特性に応じたまちづくりや住民に身近なサービスを提供していくことが求められています。また、本町の財政は、地方交付税に依存した財政構造となっています。このうち普通交付税が、合併算定替による特例措置で段階的に縮減され、令和元年度で終了となったため、更なる経費の削減が必要です。今後とも、自主的な財源確保等財政基盤の強化や効率的な行政運営を実現して財政の健全化を図り、持続性のある行政サービスの提供に努めることが求められています。

### ○ 地域資源の活用と地域産業の活性化

本町には国立公園大山を中心に魅力あふれる観光地や施設が多く整備されていますが、観光地、施設、そして産業間の連携による効果は、まだ充分には発揮されていません。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光・宿泊業、飲食業等への影響は深刻であり、経済面で大きな影響を受けています。

今後は、より一層、多様な地域資源や地域産業の連携を強め、相乗効果を創出する取り組みが必要です。

### ○ 高度情報社会の進展

第5世代移動通信システム（5G）（※1）などの最新技術を活用し、これまでの情報社会をさらに進めた Society5.0（※2）の実現に向けた技術革新は、住民生活や企業等の経済活動に大きな変化を与えることが予想され、その有効活用が期待されています。また、一方で、プライバシーの保護、セキュリティの確保等への対策が重要となっています。今後は、自治体経営の更なる効率化と、安全な情報通信サービスの提供が求められています。

※1 第5世代移動通信システム（5G）：現在の移動通信システムより100倍速いブロードバンドの提供や超低遅延を実現する次世代移動通信システム。

※2 Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会づくりを目指し、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの。

### ○ 生活利便性の向上

交通基盤の整備にともない、地域住民の生活圏や交流圏はますます拡大する傾向にあります。このような中で、特に山間部の自動車を運転できない高齢者等にとっては、買い物や通院における交通手段の確保が課題となっています。このため、市街地域や医療機関へのアクセスの向上を図るための公共交通の確保・維持といった、生活利便性の向上に向けた取り組みが必要となっています。



## 5 町民のニーズ ～住民まちづくりアンケート結果～

### 【第2次伯耆町総合計画の評価・総括】

第2次伯耆町総合計画（平成28～令和2年度）の取り組み状況の評価や課題を整理するため、住民まちづくりアンケートを実施しました。

この結果については第3次伯耆町総合計画を策定する上で反映していきます。

### 【調査方法】

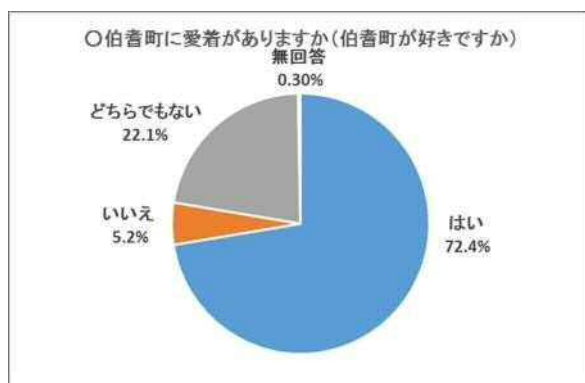
	今回	前回(平成27年)
対象者	16歳以上の町民	
対象者数	9,453人	9,913人
対象者の抽出方法	無作為	
調査方法	郵送により配布・回収	
調査期間	令和2年7～8月	平成27年7～8月
配布総数	1,500通	1,505通
回収総数	703通	572通
回収割合	46.9%	38.0%



### ○まちへの愛着・住みやすさについて

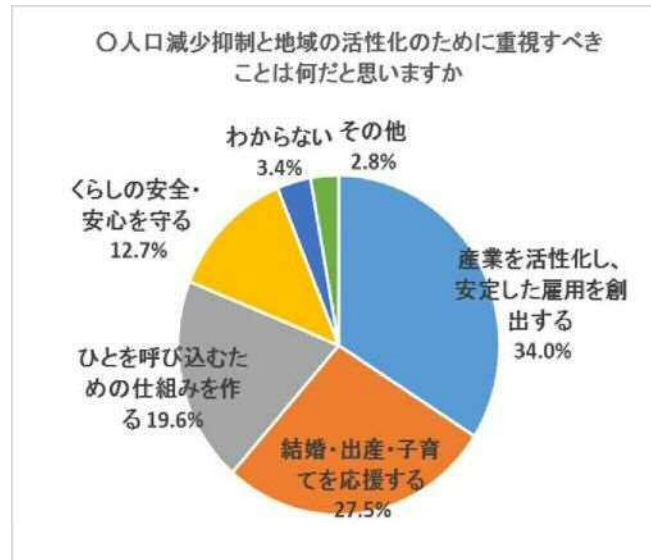
伯耆町は、自然に恵まれた町で、多くの住民の方が町に愛着を感じ、住みよいまちであると思われることが、アンケート結果から明らかになりました。

伯耆町に愛着がある（伯耆町が好き）と回答された方は **72.4%** で前回調査（70.0%）を上回り、伯耆町は住みやすいまちだと感じている人の割合は **74.4%** であり、前回調査（68.9%）と比較して5.5ポイント上昇しました。



### ○人口減少の抑制と地域の活性化について

人口減少と地域活性化のために重視すべきことは何かという問いに対して、「産業活性化・安定雇用」が一番目に多かったことから、既存企業に対する支援を継続的に行うとともに、新規の企業誘致を推進し、雇用の場を作っていく必要があります。



### ○第2次総合計画の実実施策（分野別）に対する満足度・重要度について【総括】

このアンケートを通じて、基本構想において目指している「まちの将来像」を達成するための住民ニーズの把握とその実現に向けた施策の方向性が、ある程度明らかになりました。

町の取り組み 50 項目について、満足度と重要度を 5 段階で評価してもらった結果、満足度について 44 項目が前回調査より上昇しました。このことから、第2次総合計画に沿って進めてきたまちづくりについて、一定の評価を得ることができました。

住民ニーズ（重要度）が最も高い割合を示した分野は「住環境」で、次いで「健康・医療」「子育て支援」「防災・防犯・交通安全」「社会基盤整備」「福祉」と続きます。

また、満足度が最も高い割合を示した分野は「住環境」で、次いで「健康・医療」「社会基盤整備」「子育て支援」「防災・防犯・交通安全」「生涯学習」と続きます。

このように、重要度が高い分野は比較的、満足度も高い割合を示しており、これらの分野の取り組みは、継続して望まれていると分析できます。

また、重要度が比較的高く、満足度が低い割合を示した分野が「産業振興」「住民参画・地域づくり」であり、農林業の基盤整備・担い手や後継者の育成支援、農地の荒廃防止のための取り組み、雇用の場の創出、地域活動拠点の整備、移住定住を促進するための取り組みなどについて、社会情勢を踏まえ、取り組んでいく必要があります。

(1) 住環境

「1 自然環境や景観の保全」、「3 ゴミの減量化やリサイクルなどの推進」は全体の中で満足度と重要度ともに高い数値を示しています。今後も引き続き、自然環境に配慮した生活基盤の整備や自然エネルギーの利用促進等を積極的に進めていく必要があります。

(2) 社会基盤整備

「4 上水道・下水道の安定供給」は全体で一番高い満足度と重要度を示しています。また、「5 安全な生活道路網や広域的な道路網の整備」、「8 情報通信環境の整備」は全体の中で高い満足度を示しています。これまで、重点的に取り組まれた成果の表れと言えます。

「6 地域公共交通の提供」については、住民ニーズに応えるために、運行形態の改善を図りながら事業を実施していますが、取り組みについての重要度は前回調査と比較して 1.40 ポイント上昇しており、今後も環境変化に対応した地域交通の確保に取り組んでいく必要があります。

まちづくりアンケート（集計表）

[問4] 伯耆町の取組についての満足度と重要度

現在の満足度 満足している:10、やや満足:5、どちらとも:0、やや不満:-5、不満:-10 とした平均点  
 まちづくりの重要度 重要である:10、やや重要:5、どちらとも:0、あまり重要でない:-5、重要でない:-10 とした平均点

項目	満足度		重要度		
	令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	
住環境	1 自然環境や景観の保全	3.81	3.23	7.15	6.88
	2 環境への負荷を軽減する取組(新エネルギー・省エネルギー)	1.08	0.23	5.38	5.37
	3 ゴミの減量化やリサイクルなどの推進	3.59	3.69	6.93	6.77
社会基盤整備	4 上水道・下水道の安定供給	5.85	5.71	7.85	7.40
	5 安全な生活道路網や広域的な道路網の整備	2.78	2.03	7.26	7.24
			2.22		5.17
	6 地域公共交通の提供(デマンドバス・外出支援サービス)	0.79	0.64	7.26	5.86
	7 暮らしやすい住宅地や住宅の整備・供給	1.64	0.68	5.58	5.18
	8 情報通信環境の整備(インターネット・ケーブルテレビなど)	2.96	2.28	5.93	4.84
9 行政手続きに係る電子申請・電子納付の整備	0.27 -	-	3.77 -	-	

## (3) 防災・防犯・交通安全

「12 緊急時の通信・連絡体制」は前回と比較して満足度、重要度は下がりましたが、重要度については、依然として高く、「13 治山治水施設の整備(がけ崩れの防止や砂防ダムなど)」「14 防犯・交通安全・消費生活に関する取組」は満足度、重要度ともに上昇しました。

住民の自然災害、交通安全に対する意識の高さから、安心・安全な地域づくりへの期待、ニーズは高く、引き続き関係機関等と協力して取り組んでいく必要があります。

## (4) 産業振興

全体的に満足度は低い結果となっていますが、前回調査と比較して全 10 項目のうち、9 項目が上昇していることから、少しずつではありますが、一定の成果が表れつつあると言えます。今後も継続して、農林業の担い手、後継者の育成や農商工連携などへの積極的な支援策の実施が期待されていると考えられます。

項目		満足度		重要度	
		令和2年	平成27年	令和2年	平成27年
防災・防犯・交通安全	10 消防団や集落自主防災組織の体制整備	2.01	2.38	4.97	5.79
	11 消防施設の整備(消火栓・防火水槽など)	3.09	3.24	6.22	6.72
	12 緊急時の通信・連絡体制	1.79	2.14	7.05	7.26
	13 治山治水施設の整備(がけ崩れの防止や砂防ダムなど)	0.73	0.50	7.10	6.57
	14 防犯・交通安全・消費生活に関する取組	1.64	1.19 0.43	6.59	5.75 3.57
産業振興	15 農林業の基盤(農林道・水路)整備	0.75	0.56	5.11	4.72
	16 農林業の担い手・後継者の育成支援	-1.39	-1.94	5.62	5.60
	17 地産地消推進や食の安全確保の取組	1.24	0.75	5.46	5.50
	18 農業と観光を連携させた交流型事業への取組	0.16	-0.68	3.98	4.04
	19 農地の荒廃防止のための取組	-1.82	-2.39	5.56	5.37
	20 地域の商店など買い物環境を守る取組	-0.39	0.29	5.55	5.49
	21 企業誘致活動、既存企業に対する支援による雇用の場の創出	-1.05	-1.58	5.70	5.79
	22 特産品開発、新規事業、起業化への支援	-0.58	-1.27 -0.66	4.66	4.44 4.53
	23 観光拠点整備と広域連携による観光振興	-0.01	-0.02	4.61	4.48
	24 インバウンドを含めた観光客受入体制や観光情報の提供体制の整備	-0.35	-0.49	3.27	4.27

(5) 学校教育

「26 町全体で子どもを育み、地域と共に創る学校教育の推進」は満足度、重要度ともに前回と比較して高い数値を示していることから、学校・家庭・地域が連携した取り組みの強化が評価され、期待されていると考えられます。

(6) 生涯学習

前回調査と比較して、全ての項目について重要度は下がりましたが、生涯学習の拠点としての「29 公民館・図書館の有効活用」が全体の中で高い満足度を示しています。

引き続き生涯学習への取り組みが求められています。

(7) 人権

前回調査と比較して、満足度と重要度はともに上昇しました。様々な人権課題への正しい理解と認識を深めるために、啓発活動の継続が望まれます。

項目		満足度		重要度			
		令和2年	平成27年	令和2年	平成27年		
学校教育	25	1.71	▲	1.09	5.45	▼	5.61
	26	2.00	▲	0.92	6.21	▲	5.32
	27	1.46	▲	0.69	5.90	▲	5.31
	28	0.77	-	-	5.89	-	-
生涯学習	29	2.30	▼	2.41	4.76	▼	4.90
	30	1.00	▲	0.68	4.06	▼	4.22
	31	1.67	▲	1.31	4.40	▼	4.58
	32	1.24	▲	0.78	5.26	▼	5.83
人権	33	0.90	▲	0.21	4.74	▲	4.60
	34	1.53	▲	1.05	4.59	▲	4.31

## (8) 福祉

総じて満足度は前回調査より向上し、重要度は、全項目、全年代において高い数値を示していることから、今後、さらに福祉施策の充実が期待されています。

## (9) 子育て支援

「41 妊産婦や乳幼児への健診の充実」が、全体の中で高い満足度を示しており、全項目について満足度は前回調査より上がっています。「42 保育所、病児・病後児保育など保育サービス」について、重要度は前回調査と比較して下がりましたが、20歳代から40歳代の子育て世代の重要度は高く、引き続き、子育て環境の充実が求められます。

## (10) 健康・医療

「43 健康診査、健康相談、健康教育など健康対策事業の推進」「44 医療費助成制度の充実」が全体の中で高い満足度と重要度を示しています。引き続き、健康対策事業の推進を図っていきます。

## (11) 住民参画・地域づくり

地域活動に関する質問項目では、満足度は低い傾向にあり、今後、協働のまちづくりの取り組みについて充実・強化を図っていく必要があります。

また、「48 空き家対策の推進」について、前回調査と比較して満足度は低いです。また、上昇し、重要度については大きく上昇しています。今後も増えていく空き家への早急な対策が求められます。

項目		満足度		重要度		
		令和2年	平成27年	令和2年	平成27年	
福祉	35	福祉の相談窓口や地域での支え合い体制	1.73	1.24	6.04	5.57
	36	高齢者への介護予防・生きがい対策・地域における支え合いなどの福祉サービス	2.12	1.13	6.65	6.33
	37	障がい者への社会参加促進・地域での生活支援・各種福祉サービス	1.38	0.77	6.16	5.89
	38	貧困などで自立が困難な方への生活支援、各種サービス	0.74 -	-	5.75 -	-
子育て支援	39	子育てなどに関する相談窓口や情報交換・提供などの体制整備	1.49	0.76	6.10	5.89
	40	放課後児童クラブや放課後子ども教室などの子育て支援	2.29	0.98	6.25	6.05
	41	妊産婦や乳幼児への健診の充実	2.45	2.10	6.54	6.38
健康・医療	42	保育所、病児・病後児保育など保育サービス	1.84	0.91	6.65	6.78
	43	健康診査、健康相談、健康教育など健康対策事業の推進	3.51	3.34	6.73	6.85
	44	医療費助成制度の充実	2.54 -	-	7.05 -	-
	45	住民と行政の協働による地域で保健福祉を支える仕組み	1.80	1.55	5.69	5.43
住民参画・地域づくり	46	積極的な情報公開や住民参画の仕組み	0.70	0.39	4.87	4.61
	47	集落など自主的活動の支援と地域リーダー育成	0.34	0.28	3.92	4.14
	48	空き家対策の推進	-1.38	-2.11	5.36	4.91
	49	地域の活動拠点の整備	0.25	-0.24	4.55	4.31
	50	伯耆町への移住・定住を促進するための取組	-0.53	-1.04	5.94	6.23

青数字：上位10項目 | 平成27年と比較して数値が上がったもの | 数値がマイナスのもの   
赤数字：下位10項目 | 平成27年と比較して数値が下がったもの | 数値がマイナスのもの